

# 平成27年度病害虫発生予報第11号

平成28年 2月 1日  
愛知 県

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
タマネギ	白色疫病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	べと病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 (発生を認めていない) 2月の降水量は平年並が多い	± ±～+
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	灰色かび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間はほぼ平年並	± ±
ナス (施設)	すすかび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや多い	県全域	1月下旬の発生量はやや多い 2月の日照時間はほぼ平年並	+ ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	多い	県全域	1月下旬の発生量は多い 2月の日照時間はほぼ平年並	+ ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	1月下旬の発生量はやや少ない	-
	灰色かび病	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	1月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	1月下旬の発生量はやや多い 2月の日照時間はほぼ平年並	+ ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	1月下旬の発生量はやや少ない	-
	ハダニ類	多い	県全域	1月下旬の発生量は多い	+

## ・防除対策

### 〔ナス（施設）・灰色かび病〕

換気などを行って施設内の湿度を低く保つよう努めるとともに、発病部位は新たな伝染源となるので、除去しましょう。同一系統薬剤の連用を避け、アフエットフロアブル、ピクシオDFなどで防除しましょう。

### 〔キュウリ（施設）・べと病〕

平成27年12月1日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

### 〔イチゴ（施設）・灰色かび病〕

平成28年1月5日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

### 〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

平成27年10月2日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

## ・留意事項

タマネギ白色疫病の発生が確認されています。ほ場を良く観察し、初発を確認したら速やかに防除を行いましょ。う。

キャベツでは、コナガが発生しているほ場があります。コナガが発生しているほ場では、収穫終了後、速やかにすき込みましょ。う。

キャベツ菌核病は、発病株上に形成された菌核が次作の伝染源となるので、被害残さを集めてほ場の外へ持ち出し、適切に処分ましょ。う。

トマト灰色かび病の発生量は平年並ですが、一部の地域では、1月下旬以降から発生量が多くなっています。過湿にならないように、施設内の換気や送風を行いましょ。う。また、本病は発病果や発病葉が伝染源となるので、見つけ次第取り除いて処分ましょ。う。

トマト黄化葉巻病の発生量は平年並ですが、今後、気温が上昇するとともに、病原ウイルスを媒介するタバココナジラミの発生量が増加して、本病の発生が増えることが懸念されます。タバココナジラミの発生に注意して、防除を徹底ましょ。う。発病株は伝染源になるので、見つけ次第適切に処分ましょ。う。

ナス、キュウリでは、ミナミキイロアザミウマの発生量は平年並ですが、施設内温度が高く推移すると、急激に増加することがあります。ほ場での発生状況に注意し、早めの防除を心がけましょ。う。

## 参考

### 東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台1月28日発表）

#### 〈特に注意を要する事項〉

1週目は気温が高く、2週目は低くなる見込みで、気温の変動が大きいです。

#### 〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、低い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

#### 〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

#### 「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。